

上戸学園女短大 ○松浦タケノ
青木 迪佳
石川 啓子

1. 和服工作は衣類の性格上、未だに手縫い作業が多く、縫製方法も従来と大同小異、而も一般に和服工作の技術は低下しているという現状である。作業上の補助器具についても進展は見られない。

そこで私達は、和服工作の作業分析の立場から、その合理的な補助器について研究した。

2. 補助器として最も要求される事は、懸張、重り、及びその機能性である。それ等を完備するために、次の実験を行った。

被験物としてのけんちん器はその底面に、布を貼付、あるいはしないものである。この被験物と実験台に布を貼布したものととの力学的関係について研究した。

- (1) 懸張力の測定。
- (2) 摩擦度の測定。
- (3) けんちん器の設計。

3. けんちん器とその対称布面との力学的な測定結果

に基づいて、けんちん器の合理的な形状を決定し、和服
工作の技術と能率を向上することができた。

したがって、このけんちん器の使用は“A stitch in time
saves NiNe”の役割を果たすことになる。